

〈熊毛地区社会教育主要事業実績〉

月	日	曜	事業名	会場	参加者数
5	20	土	地区子ども会指導者・育成者研修会 地区子ども会安全教育研修会	南種子町中央公民館	64人
6	9	金	地区社会教育指導者研修会(PTA・女性・高齢者団体)	西之表市民会館	62人
6	24	土	地区人権教育ブロック別指導者研修会 地区社会教育指導者研修会(青年団体)(~25日)	屋久島環境文化村センター	67人
7	6	木	地区文化財保護審議会委員等研修会	種子島開発総合センター	30人
7	22	土	中央ブロック子ども会ジュニア・リーダー 及び高校生クラブ等交流大会(~23日)	あっぱらんど 他	47人
7	26	水	地区子ども会大会・創作活動(~27日)	熊野レクリエーション村 他	40人
9	3	日	ふるさとを興す熊毛地区保健・福祉学習大会	屋久島福祉センター縄文の苑	84人
9	8	金	地区社会教育委員等研修会 地区自治公民館経営研究会	南種子町中央公民館	58人
11	25	土	県PTA活動研究委嘱公開	種子島こり~な	359人

熊毛地区社会教育振興会では、地域、家庭、学校、行政、関係機関等の連携がさらに深まり、熊毛地区の社会教育がますます充実・発展することを願ってリーフレット「熊毛の社会教育」を作成しています。

一・二ページには、地区主要行事を、三・六ページには、一市三町の特色ある事業等を掲載してあります。

ぜひ御一読いただき、本地区の社会教育のさらなる充実・発展に御理解と御協力をお願いいたします。

熊毛の社会教育

平成三十年二月発行
熊毛地区社会教育振興会

指導者・育成者研修会 子ども会安全教育研修会

平成二十九年五月二十日(土)
南種子町中央公民館(六十四人)

各市町の子ども会リーダーや育成者・指導者を対象に、KYTの演習や子どもたちが積極的に活動を行うための役割について学びました。また、合同で南種子分遣所の方々から正しい応急救護について学んだり、みんなで楽しめるニュースポーツを体験したりしました。



社会教育指導者研修会

PTA・女性団体・高齢者団体

平成二十九年六月九日(金)
西之表市民会館(六十二人)

種子島地区のPTA及び女性団体・高齢者団体が、各団体の活動の充実を目的として合同研修を行いました。

県立中種子養護学校の堀切剛教諭を講師に迎え、「支援を必要とする子どもたちを地域ぐるみで守る」をテーマに御講演いただきました。障害のある子どもや大人に対する理解と、望ましい配慮の仕方について知り、本人やその家族を孤立させない声かけを心がけるということを学びました。

その後、レクリエーション活動やワークショップを通して、他団体との交流を楽しみながら、参加型学習の在り方について研修を行いました。



青年団体(人権教育)ブロック別研修会

平成二十九年六月二十四日(土)二十五日(日)
屋久島環境文化村センター(六十七人)

熊毛地区一市三町の青年団が一堂に会して、一泊二日の宿泊研修を行いました。

人権教育では、県教育庁人権同和教育課川畑指導主事に、同和問題をはじめとする人権課題にいかに取り組みやすいかについて指導していただきました。また、ワークシヨップや室内ネイチャーゲーム等を通して活発な意見交換や交流をすることができ、数年ぶりとなる全市町揃っての本研修が有意義なものとなりました。



参加した皆さんが学習したことをそれぞれの立場で実践し、広めてくださることを期待します。

文化財保護審議会委員等研修会

平成二十九年七月六日(木)
種子島開発総合センター(三十人)

文化財保護行政について、県文化財課担当者の講話後、南種子町の委員から「南種子のガロー」について事例発

表がありました。

また、西之表市の新収蔵文化財の紹介では、今年度、国の登録有形文化財となった「旧上妻家住宅」が紹介され、門や屋内内部の写真も公開されました。

今後の各市町文化財保護行政の推進・充実に生かしていただきたいと思います。



中央ブロック「子ども会ジュニア・リーダー及び高校生クラブ等交流大会」

平成二十九年七月二十日(土)二十三日(日)
あっぱらんど 他(四十七人)

熊毛地区、鹿児島地区、鹿児島市のジュニア・リーダーが集い、一泊二日の交流大会を行いました。

一日目は、各団体の活動報告やシーカヤックとシュノーケリングの野外体験を行い、バーベキューやレクリエーション活動を通してさらに交流を深めました。



二日目は、前日に探したお題をもとにした「ししゃべり場」活動を行い、白熱した討論となりました。

日頃経験出来ることのない他団体との交流で学んだことを活かして、地域におけるリーダーとして活躍していただけることを期待しています。



子ども会大会・創作活動

平成二十九年七月二十六日(水)二十七日(木) 熊野レクリエーション村 他(四十人) 各市町の子ども会員が集い、体験活動や創作活動を通して、楽しい子ども会活動にするための工夫や心構えを学びました。



一日目は、KYTや話し合い活動で意見交換を行い、テント設営やカレーライスづくり挑戦しました。初めはぎこちなかった子どもたちも、次第に和気あいあいとした雰囲気になりました。二日目の体験活動では、シーカヤックとマングローブ散策、創作活動では海岸で集めた材料で写真フレームづくりを行いました。友だちと協力しながら目的を達成する楽しさを味わった経験、他の子ども会員にも伝えてほしいと思います。

ふるさとを興す熊毛地区保健・福祉学習大会

平成二十九年九月三日(日)

屋久島町福祉センター縄文の苑(八十四人) 屋久島地区の女性団体を中心に、高齢者団体や公民館関係者が集い「健康かごしま21の実践をめざして」がありがとうでさようなら」をテーマにした研修を行いました。訪問介護や在宅介護にまつわる寸劇や講演で会場が笑いに包まれたり、参加型の健康体操教室で体をほぐしたりと、参加された皆

さんは楽しみながら学びを深めることが出来ました。今回は屋久島地区のみの参加となりましたが、次年度以降の継続や種子島地区との合同開催を目指して、熊毛地区の女性団体の連携を図っていききたいと思います。



社会教育委員等研修会 自治公民館経営研究会

平成二十九年九月八日(金) 南種子町中央公民館(五十八人)

講演

鹿児島市西陵まちづくり協議会会長で、種子島にも縁の深い田上正人氏を講師に迎え、「熊毛地区の生涯学習の発展に向けて」を演題に御講演いただきました。笑いあり音楽ありの楽しい雰囲気の中で、地域コミュニティの構築の在り方を見直すことが大切であること、お話しいただき、地域の活性化を再考する良い機会となりました。

社会教育委員等研修会

「地域定住の取組とこれからの展望」をテーマに、中種子町増田校区長が事例発表を行いました。校区の施設を利用した活動や、児童減少を防ぐための後継者育成事業について活発な意見交換がなされました。

自治公民館経営研究会

「世代交代で消滅していく地域の知恵をいかに未来に役立てるか」をテーマに、南種子町葦永公民館長が事例発表を行いました。赤米を活用した地域おこしの取組や、十年後を見据えた話し合い活動は、他の公民館の運営にも大変参考となるものでした。

県PTA活動研究委嘱公開

平成二十九年十一月二十五日(土) 種子島こりくな(三百五十九人)

野間小学校PTA研究テーマ「心豊かでたくましい野間っ子を育てるPTA活動」についての研究発表をもとに、健やかな子どもたちを育むための教育活動の在り方等について協議しました。野間小学校PTAでは、テーマ解決へ向けて「メディアール運動の徹底」と「むし歯治療の推進」の共通実践事項を設定して、広報活動や啓発活動の強化に取り組んでおります。各専門部と学級PTAと連携を図りながら協力して取り組む体制を整備し、一専門部に負担が偏らないような配慮をする点などは、参加者にとつて大いに参考になったようです。また、鹿児島国際大学実習支援課長の日高孝氏に、絵本を活用しながら、家庭生活における親子のふれ合いを深めるための具体的な方法等について御講演いただきました。参加者にとつては、PTA活動や家庭教育の在り方等について、改めて見直す良い機会になりました。



受賞おめでとうございます

- ◆平成二十九年年度各種表彰 ※敬称略
- ◆優良PTA文部科学大臣表彰 納言小学校PTA (中種子町)
- ◆九州地区子ども会育成連絡協議会表彰 小菌 正喜 (南種子町)
- ◆県子ども会育成連絡協議会表彰
- 【優良団体】
 - 星原子ども会育成会 (中種子町)
 - 西之町公民館青少年育成部 (南種子町)
- 【優良個人】 丸田 健次 (西之表市)
- ◆優良青少年団体及び優良地域高校生クラブ等表彰 ジュニア・リダラーズ「まにゅ」 (中種子町)
- ◆優良読書グループ表彰 なかたねおはなしパレット (中種子町)
- ◆熊毛地区社会教育関係表彰
- 【優良団体】
 - 西之表市文化協会 (西之表市)
 - 西野小学校おやじの会 (南種子町)
- 【優良個人】
 - 榎本 和枝 (西之表市)
 - 泊 圭一郎 (屋久島町)
- ◆熊毛地区子ども会育成連絡協議会表彰
 - 岩岡子ども会育成会 (中種子町)
 - 葦永地区公民館青少年育成部 (南種子町)
 - 安房如竹子子ども会 (屋久島町)

【編集・発行】

熊毛地区社会教育振興会事務局 住所 西之表市西之表七五九〇番地 熊毛教育事務所内 電話 (〇九九七) 二二一〇五三五 FAX (〇九九七) 二二一〇五二二

西之表市

まなびの輪



にしのおもて

繋げる・広げる

西之表市連合青年団の取組

西之表市連合青年団は、平成三十年一月一日現在団員数百一人。これは、県内随一を誇ります。

平成二十九年度は、「青年団の若い力を結集し西之表市を興す活動」目標を持って行動し、繋げる広げる青年団」を基本方針に活動を行っています。

「ビーチバレーフェスタ」と「サンタクロース大作戦」を二大行事とし、団員数の増加とともに現在は独自の運動会や奉仕作業など新たな活動を模索し、市民も巻き込んだ取組を実施しています。

十一月十日から十三日にかけて開催された第六十六回全国青年大会に鹿児島県代表として「バドミントン」「フットサル」「写真展」「のど自慢」の四種目に出場しました。出場した各種目において、全国大会という高いレベルの取組や競技に触れることができ、出場した団員一人一人にとって、とても貴重な経験となったことと思います。

団長は、「全国大会に出場するにあたって多くの方々からの御支援・御声援を賜りました。御恩を少しでもお返しできるように、今後も地域に貢献する青年団活動を目指していきます。」と話してくれました。

高齢者の学びを支える

「寿大学」

高齢者が各種の学習や交流等を通して、生きがいに満ちた心豊かな人生を送るために、毎月「寿大学」を開催しています。

寿大学は、市内四地区にある高齢者学級の中央教室としての位置づけで、現在、六十五歳以上の高齢者百六十五人が毎月一回の学習を楽しみにしています。

午前中は、年間計画に定められている毎回のテーマに沿った学習を行います。年間計画は、年度の初めに運営委員会を行い、運営委員さんと事務局（社会教育課）で話し合い決定します。今年度は、「市長の講話」や「薬と健康について」、「交通について」、「消費生活について」

など、高齢者の関心が高く、要望の多いものを計画しました。講師についても、種子島警察署署員や薬剤師会



寿大学学園祭(舞台発表の部)

の方、消費生活相談員など多くの方に御協力いただき実施しています。

昼食をはさんで午後からは、音楽クラブや書道クラブ、園芸クラブや体育クラブなど各自が興味関心のあるクラブに参加し活動を行います。十二月に開催した「寿大学学園祭」では、それらのクラブ活動での成果を展示・発表していただきました。学級生の皆さんの生き生きとした表情がとても印象的でした。

昭和四十二年に開講した「寿大学」も今年度で五十年を迎えました。これからも高齢者の豊かな学びを支えていきたいと思えます。

読書活動の推進 移動図書館車「あおぞら2号」

西之表市立図書館には、「あおぞら2号」という移動図書館があります。

市街地にある市立図書館と市街地から離れた集落を巡回する「あおぞら2号」とで、西之表市に住む方々の読書活動を推進しています。

「あおぞら2号」は、市内各地域にある学校や公民館、福祉施設など二十か所をステーションに指定し、そのステーションを三つのルートに分けて月一回ずつ巡回しています。ルートについては、図書館協議会での協議や地域おこし協力隊員の意見をふまえながら、随時見直しを行い、決定するようになっています。市立図書館までいらっしやるのが難しいお年寄りや体の不自由な方々にも、ステーションでの図書利用ができるということで、利用者

数も伸びてきています。

「あおぞら2号」には、約二千七百冊の本を常時積載し、市立図書館に事前にリクエストをいただければ、本をステーションまでお持ちするようになっています。また、市立図書館で借りた本を「あおぞら2号」に預けて返却することもできます。

八月、学校の夏休みには、市内の六か所の児童クラブや児童館・児童センターを特別巡回しました。スタッフによる「おはなし会」も併せて実施し、大変好評を得たところです。

市立図書館では、このほかに「ブックコンテナ」による幼稚園・保育園、小学校への配本や毎月第二土曜日の親子読書教室、子育てサロン等での出張おはなし会を行っています。

今後も、多くの市民の方に本の世界に触れてもらえるような魅力ある取組を続けていきたいと思えます。



あおぞら2号 貸出風景



中種子町



風立のまち なかたね

自治公民館連絡協議会

女性部



自治公民館連絡協議会女性部
スポーツ大会

平成二十九年十二月二日に種子島中央体育館に於いて、自公連女性部のスポーツ交流会(ミニバレー)が行われました。今年で十五回目を迎え、六チーム四十四人が参加しました。女性部では、「力を合わせて出来ることから行動し、豊かな地域づくりを気軽に参加できる組織」を目指していることから、相互交流を図り、日頃の仕事や家事、子育てでの疲れを忘れ、和気あいあいとスポーツを楽しみました。笑い声が絶えず、熱戦が繰り広げられた中、一人のケガもなく大会を終了することが出来ました。

「なかたね読み聞かせ会」

読書は、人類が獲得した誇るべき文化です。読書によって我々は深く知識が身についたり、物事をより深く考えることができたり、読書は多様な分野が用意され、簡単に享受でき、しかもそれほど費用もかからないという特色もあります。特に幼児期から読み聞かせをして読書週間に身につけることは、国語力を向上させるばかりでなく、一生の財産として生きる力ともなり、楽しみへの基となるものです。そんな思いで町内の幼稚園・保育所・小学校を訪問し、実施している「なかたね読み聞かせ会」は、今回も町内の読み聞かせグループ「なかたねおはなしパレット」の皆さんに依頼をし、本年度で十七年目を迎えました。



なかたね読み聞かせ会

様々な手法で読書活動の普及と子どもたちの健やかな成長と豊かな人間性の向上に努めており、大型絵本やパネル

シアターを使った読み聞かせの他、共通語での会話がなくなった家庭で育った子どもたちに、方言のよさや意味を大事にしてもらえるような読み聞かせも取り入れていきます。種子島の方言を使ったことばあそびや民謡、また、サックスを使った種子島の子守歌の演奏を行い、子どもたちは終始楽しそうに聞き入っていました。今後も更なる読書活動の充実を図っていきたいと述べています。

「中種子町青少年 さつま交流事業」

本町では、戦時中昭和二十年に現在のさつま町へ集団疎開したことをきっかけに、両町においてお互いの児童生徒が毎年交互に訪問しあい交流を深める「中種子町青少年さつま交流事業」を実施しています。十一回目を迎える本年度は、さつま町から四十九人の児童生徒が来町し、八月二十一日から二十三日の二泊三日のなかで、疎開体験者の体験談や地引き綱、シーカヤック、マンガロープ散策等の様々な体験を通して本町の児童生徒との交流を深めました。



シーカヤック体験の様子

南界小学校三・四年生 自然と歴史を学ぶ 古代の生活体験

平成二十九年十二月十九日、南界小学校の三・四年生九人が「総合的な学習」において、地域を知るという目的で、重要文化財古市家住宅にて、古代の生活を体験しました。

各自でイメージした古代の服を纏った子どもたちは、まず椎の実を採集し、河川で調達した石で殻を割り、安納芋と混ぜて焼き上げ、甘くておいしいドングリクッキーを作りました。



クッキー作りの様子

クッキー作りの後は、竹や木の枝に植物質の弦を付けた弓矢で、藁を束ねてイノシシや鹿に見立てた的を射る狩猟体験をしました。はじめは、道具の使い方などに苦戦していましたが、慣れてくると、道具を器用に使えるようになつたり、飛ばした矢を的に当てられるようになつたりしていました。



狩猟体験の様子

子どもたちは、今回の体験を通して、古代人が生活するために様々な知恵を使っていたことに驚き、食事や道具の使い方などの難しさを学び、古代の生活に興味を持ったようでした。地域の「宝」を身近に知ることが出来たユニークな企画になりました。

南種子町

心ふれあうまちづくり

南種子町

赤米サミット in 南種子

赤米文化を
未来を生きる子どもたちへ

平成二十九年十一月二十五日に、南種子町荃永に伝わる貴重な文化財である「赤米」を未来を生きる子どもたちへ伝えることをテーマに、シンポジウム「赤米サミット in 南種子」が開催されました。シンポジウムでは、荃南小、花峰小児童による伝統の御田植歌の披露や、赤米と深い関わりのあるミュージシャンの相川七瀬さんによる基調講演、赤米染色家である喜多長蔵先生なども参加したパネルディスカッションなどが催されました。



荃南小児童による田植歌

南種子町立図書館では、保護者と赤ちゃんに絵本を介した楽しい時間を過ごしてもらうことを願い、乳幼児健診の際に、「ブックスタート事業」を実施しています。司書が健診会場を訪問し、保護者に、読み聞かせの仕方を指導しながら、読書活動の大切さや、町立図書館の紹介等を行っています。また、参加された親子がその日から読み聞かせに取り組めるように、全員に本を一冊ずつ配布しています。平成二十年から実施していますが、この事業をきっかけに、図書館へ通うようになった方や、子どもの読書活動に興味を持たれる方もいます。これからも、様々な形で本の魅力や読書の楽しさを伝えていきたいと思います。

本をもっと身近に
ブックスタート事業



配布する本と資料

異年齢集団による体験プログラム
みなみたねっ子
ふるさと学寮

平成二十九年十月二十五日から二十八日の四日間、本町自然の家において「みなみたねっ子ふるさと学寮」を、社会教育課と町連合青年団の共催で実施しました。本事業は、異年齢の子どもたちが共同生活することにより、責任感や協調性等を育むことを目的としています。



自在鉤づくりの様子

今年度は、町内の小・中学生十四人が参加し、オリエンテーション、毎日の食事づくり・洗濯・宿題、五右衛門風呂体験、創作活動「ロケットペーパークラフト」、ニュースポーツ体験などを行いながら、平日は自然の家から各学校へ通いました。最終日には、初めての取り組みである「自在鉤づくり」を、教育長が講師となつて実施し、長時間かけて創作活動を行いました。

友好都市交流事業
秋田県大館市
児童交流団の受入

平成三十年一月六日から八日の間、友好都市である秋田県大館市から児童交流団が来町し、見聞を深めました。中でも、一月七日に行われた「福祭文(クサイモン)」に、仲西集落の協力のもと参加し、本町の芸能文化に触れる良き機会となりました。



福祭文(クサイモン)の様子



屋久島町

さわやかあいさつのまち

屋久島町

五年ぶりの開催！
《ふるさとを興す学習大会》

平成二十九年九月三日（日）、屋久島町総合福祉センター縄文の苑において、ふるさとを興す熊毛地区保健・福祉学習大会が開催されました。本大会は、熊毛地区女性連絡協議会の主催で毎年開催されていましたが、近年は諸般の事情により開催がかなわず、今回五年ぶりの開催に至りました。

大会では、屋久島町役場健康増進課による訪問介護の活用や最近の状況をおもしろおかしく寸劇にした紹介や、訪問看護ステーション職員による訪問看護についての講演、さらには、インストラクターによる健康ストレッチング教室等、各所と協働した学習会となりました。八十人を超える参加者の方々は、大いに笑ったり体を気もちよく伸ばしたりしながら、健康や介護について学ぶことができました。本年度現在、熊毛地区女性団連絡協議会加盟は屋久島町のみですが、これに関わらず、次年度以降は種子島地区



寸劇「ありがとうでさようなら」

の女性団体にも協力をいただきながら本大会を継続していけたらと考えています。



ストレッチ教室

主体的な活動をめざして
《町子連リーダー研修会》

平成二十九年五月二十七日（土）離島開発総合センターにおいて、平成二十九年年度町子連リーダー・指導者・育成者研修会が開催されました。研修会は、三つの内容から行われました。

① 研修Ⅰ KYT

町子連副会長と社会教育主事が講師を務め、育成者、子ども別にKYT研修を行いました。イラストを使った危険個所の発見、グループ別に課題の活動に対する具体的でわかりやすいKYT目標の設定を行いました。目標発表の際は、他のグループからも称賛や意見をもらいながら、各目標の改善も行いました。

この研修を生かして、複数の単位子ども会において独自のKYT研修が事

後に実施されました。また、本年度より毎活動後に記録する活動実施報告書にKYT目標記載欄を設けたことで、本研修以後、具体的な目標を設定して活動する子ども会が増えてきました。

② 研修Ⅱ リーダーの役割

社会教育主事経験のある町内のお二人の教頭先生に講師を依頼し、育成者、子ども別に研修を行いました。子ども部では、ゲームを通して「相手の価値観も認めようえでの言動」がリーダーには必要なことを学びました。大人の部では、子どもや育成者と「気持ちの共有」をしながら運営技術を身に付けていくことの重要性をレクを通して研修しました。



育成者研修

③ 全体レク研修

高校生クラブ「ぼんだま」の指導で、各子ども会で気軽に行える楽しいレクを複数紹介してもらいました。次年度以降も、本研修の内容充実を図り、「主体的に活動する子ども会」の更なる具現化をめざします。



KYT研修(子ども)

逆境を生かす生き方
《屋久島町人権教育研修会》

平成二十九年八月二十二日（火）、屋久島町総合センターにおいて、町人権教育研修会を開催しました。講師に国際パラリンピック委員会世界陸上大会入賞者の田屋光二氏（西之表市在住）をお招きし、「逆境を生かす」を演題に御講演いただきました。講演では、ユーモアのある語りを交えながら、走り高跳びの実技や金メダルを全参加者が触れる時間もありません。会場参加型の講演に、会場の皆さんは終始感嘆の声を上げたり、頷いたりしていました。田屋氏の講演から、「苦しいこと、悲しいことがあったとき、『どうやったらできるだろう』と前向きに考える」とのこと、「自分を支えてくれる人が必ずいる、その人たちに感謝しながら笑顔で生きることが大切であること」を学ぶことができました。



走り高跳びの実技



初めて触る金メダル